

7月は「社会を明るくする運動」の 強調月間です

■「社会を明るくする運動」とは

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築こうとする全国的な運動です。

市では、保護司会、更生保護女性会などが、強調月間である7月に、街頭キャンペーンや中学校でのあいさつ運動などを実施し、「社会を明るくする運動」への理解を深めるための活動をしています。

■地域のチカラが犯罪や非行を防ぐ

テレビや新聞では、毎日のように事件(犯罪)のニュースが報道されていますが、安全で安心な暮らしはすべての人の望みです。犯罪や非行をなくすためには、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることがとても大切なことです。

立ち直りを支える家庭や地域をつくるためには、一部の人たちだけでなく、地域のすべての人たちがそれぞれの立場で関わっていく必要があります。「社会を明るくする運動」では、犯罪や非行のない地域をつくるために、一人ひとりが考え、参加するきっかけをつくることを目指しています。



5月28日、下妻市保護司会の富岡会長(中央)武笠副会長(右)が、社会を明るくする運動の内閣総理大臣メッセージを菊池市長(左)に伝達しました。

緊急地震速報の全国一斉訓練を実施

6月17日に、国の機関、都道府県、市区町村が連携し、全国的な緊急地震速報の訓練を実施しました。本市では、午前10時に防災行政無線を使用した訓練放送を行いました。

地震などの際に、慌てずに身を守るなど適切な行動をとるためには日頃からの訓練が重要となります。上妻小学校では、放送に併せてシェイクアウト(身を低くする、頭を守る、動かないことで安全を確保する行動)訓練を行い、いざという時のための動作を確認していました。



机の下で身を低くする児童

消防団詰所を建て替え

6月2日、老朽化に伴う建て替え工事が完了した下妻市消防団第5分団第1部(総上地区)の消防団詰所の引渡式を行いました。新しい消防団詰所は鉄骨造2階建て・延べ床面積65平方メートルです。

引渡式には地元消防団員をはじめ、下妻消防署員など関係者が参加。菊池市長から鍵を渡された横島義勝第5分団長は「コロナ禍にあっても活動も制限されていますが、気持ちを新たに、地域防災のため消防団活動に邁進してまいります」と力強く語りました。



新しくなった消防団詰所

鬼怒川緊急対策プロジェクト

国土交通省下館河川事務所が進めてきた鬼怒川緊急対策プロジェクトのハード対策が概ね完了しました。これまで約5年の期間をかけ、約66kmの堤防整備と約128万㎡の河道掘削などを実施してきました。

堤防は整備できましたが、近年頻発する大規模災害には細心の注意を払ってください。また、自分自身の防災行動計画「マイ・タイムライン」を作って、避難計画についてご家族で確認してください。今は台風等での水害が起こりやすい季節です。市の防災情報などを確認して、早めの避難行動をお願いします。



整備された堤防(長塚地区)

砂沼サンビーチ跡地活性化協議会 から要望書提出

6月3日、砂沼サンビーチ跡地活性化協議会(座長:貝島桃代筑波大准教授)から砂沼サンビーチ跡地調査報告にかかる要望書が市長に提出されました。

当協議会は、「温泉利用型健康増進施設」「地元食材を活用した食品販売・提供施設」の検討、「住民要望の把握」などについて要望しています。



菊池市長に要望書を提出する砂沼サンビーチ跡地活性化協議会事務局の皆さま

「砂沼周辺エリアのまちづくり説明会」開催

6月24日、27日の2日間、市立図書館で、「砂沼周辺エリアのまちづくり説明会」を開催し、Web会議利用者を含め78人が参加しました。説明会では、「砂沼サンビーチの跡地利活用」「下妻市公民連携まちづくり構想・砂沼戦略」「下妻市環境アクションプラン」の3つのテーマについて、市担当者が説明しました。

参加者からは、「住民の声を広く聞いて欲しい」「砂沼の新しいまちづくりに興味があった」など、多くの意見・要望が出されました。市は、今後も市民参画による砂沼を活かしたまちづくりを推進していきます。



砂沼周辺エリアのまちづくり説明会(27日)

有料広告欄

有料広告欄

有料広告欄